

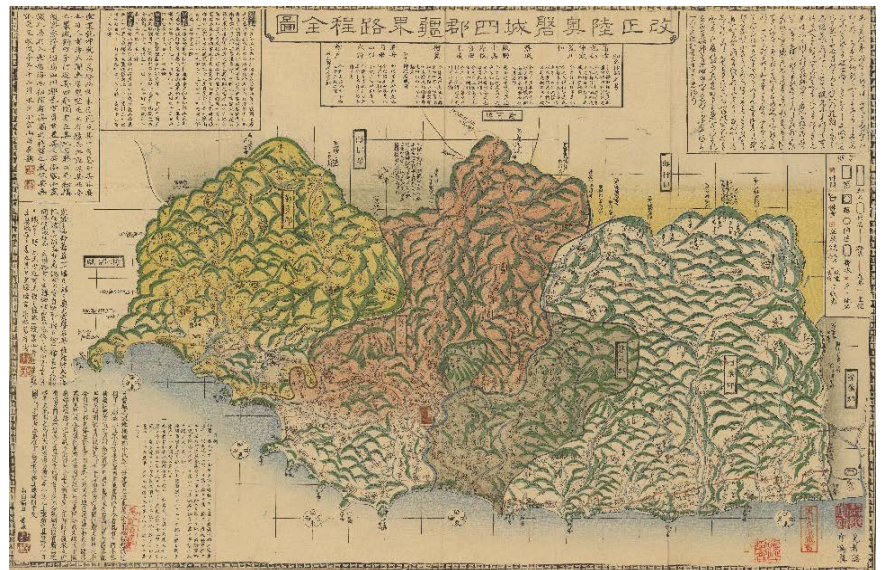


企画展

# 絵図にみる 江戸時代のいわき



磐城平城絵図 (1737頃)



改正陸奥磐城四郡疆界路程全国圖 (1828)

いわき市立いわき総合図書館

いわき市平字田町120 ラトブ4・5階

☎ 0246-22-5552

<http://library.city.iwaki.fukushima.jp/>

## 開催にあたって

いわき市平は約400年前に築かれた磐城平城の城下町として整備され、発展しました。当時の地名が現在も受け継がれる等、藩政は私達の生活に深く関わっています。

城は約150年前の戊辰戦争で落城し、現在は本丸跡地と周辺の石垣、丹後沢に名残を留めています。

昨年8月、本丸跡地を公園として整備中に「磐城平城本丸御殿跡遺構」が発見され、その歴史的価値が評価されました。

遺構発見を機に、図書館所蔵の江戸時代の絵図「磐城平城絵図」(1737頃)と「改正陸奥磐城四郡疆界路程全図」(1828)を複製し、公開いたします。

絵図は当時の歴史的な空間をわかりやすく表しています。この絵図の展示を通して、いわきの歴史に関心を持ち、これからの町づくりを考える一助にさせていただくことを目的に開催いたします。

令和3年10月

いわき総合図書館



## 江戸幕府の地図事業



江戸幕府は治政のために諸国の大名に国絵図（国毎の地図）と郷帳（土地台帳）の作成と提出を命じ、その国絵図を集成して日本図を作成しました。

また、正保年中には全国の城絵図と道帳（陸路と海路）も命じました。

国絵図は良質の紙に御用絵師が美しい彩色を施した巨大な手書き絵図で、改訂される度に縮尺や様式が統一されていきました。上納された二部の内、一部は幕府の御文庫（紅葉山文庫）に収納、一部は勘定所で保管されました。歴代の将軍の中で御文庫に一番多く足を運んだのは、徳川吉宗です。

国絵図は後に明治初期の日本の地図作りに活用され、現在その一部が国立公文書館の内閣文庫に国の重要文化財として保存されています。

諸大名の元にあった下絵や絵図の控は、各地域の博物館等で貴重な地域資料として保存されています。



### 〔日本図〕写

〔江戸初期〕

国立国会図書館所蔵  
古典籍資料（貴重書等）  
-絵図

（WAP46-1）

手書 370×434cm

縮尺は五分一里

\* 国立国会図書館

デジタルコレクション

インターネット公開

資料より





## 城 絵 図



江戸幕府は、諸国の大名に「一国一城令」で本城以外の城は取り壊させ、「武家諸法度」で城の新築禁止と修築の届け出義務を命じました。

さらに、正保年中、軍事のために国絵図と同様に一定の規定の下、城郭と城下の町割り、山川の位置や形を含めた城絵図の作成と提出を命じました。

提出された城絵図は、幕府の御文庫に収納されましたが、各藩では改修の度に絵図の提出が必要なので、控として改訂版を作っていました。

戊辰戦争のおり、城絵図は新政府によって御文庫からを持ち出され、会津鶴ヶ城等の城攻めに使われ、散逸しました。御文庫に残された絵図は、国立公文書館の内閣文庫に国の重要文化財として保存されています。



## 磐城平城絵図



118 cm × 184.5 cm 鳥の子紙に彩色された大型城絵図。1937(元文2年) 絵図の表には「原氏」、裏の付箋には「嘉永□□、於江府表求之」と書かれており、平藩士の「原家」と思われます。

後に三猿文庫の所蔵品となり、現在はいわき総合図書館の貴重書庫に保管されています。

(複製図 104 cm × 165 cm)







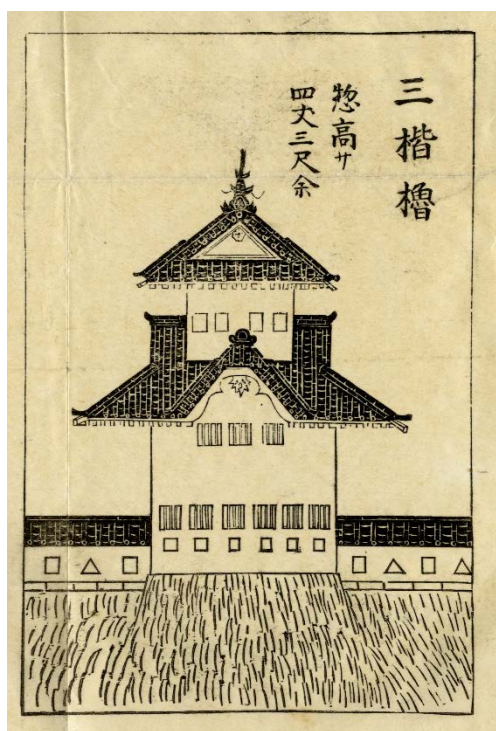
## 磐城平城



鳥居忠政は、徳川家康から東北の外様大名に備えて平に城を築くことを命じられ、12年の歳月をかけて築城し、城下の町割りも行いました。

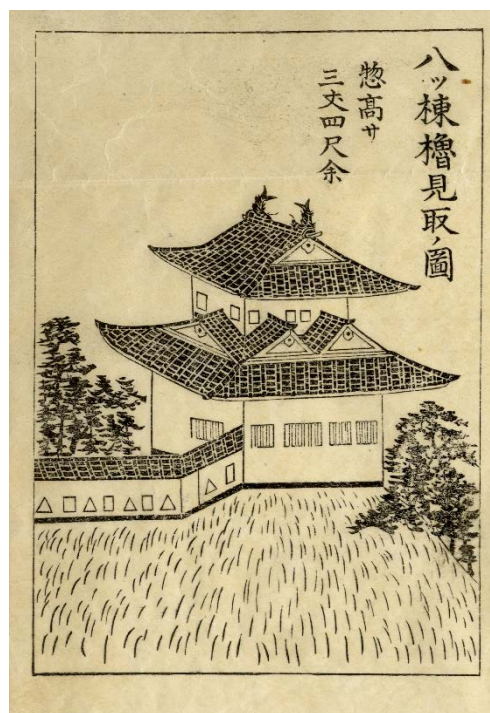
東日本の城は石垣より崖を利用し、天守を作らずに櫓で代用しています。磐城平城も石垣や土居をあまり使わず、岩石段丘を活かして、天然の急崖（標高30-40m）を利用しています。門や櫓の石垣には、小川・好間・赤井などの川の石と花崗岩を使っており、三階櫓が天守の代わりとなっています。

段丘の中央に湧水谷があり後沢という大沼の水が北側に流れていました。城の堀にするために堤防を築こうとしましたが、何度も決壊してしまいます。そこで丹後という老人を人柱にたてると決壊が治まり、堤防が築かれました。堀はのちに「丹後沢」<sup>たんござわ</sup>と名付けられたと伝えられています。



三階櫓（高さ約15m）

『戊辰私記』「磐城平城戊辰当年現在拾櫓ノ内六櫓ノ図」より



八ッ棟櫓（高さ約10m）

『戊辰私記』「磐城平城戊辰当年現在拾櫓ノ内六櫓ノ図」より



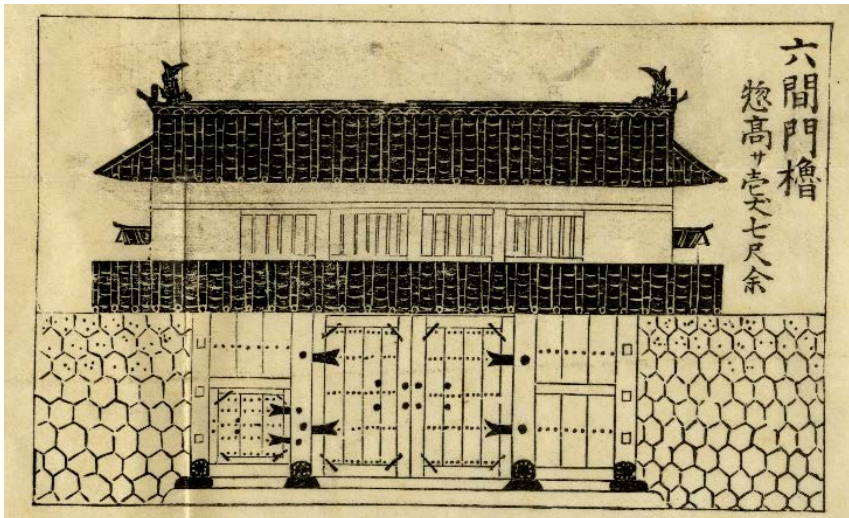
## 「磐城平城絵図」をみるポイント



城は本来、戦いのための防御施設です。本丸に政を行う表御殿や大名が暮らす奥御殿が置かれると、城は権威の象徴となっていきました。

敵の攻撃を防ぐための工夫がわかるポイントは次のとおり。

- 本丸を囲む多くの櫓と門、塀。門は枡形。
- 周りに複数の廓、石垣と崖、二重に巡らせた堀。
- 周囲に家臣の侍屋敷。下級武士と足軽の家はその外側と主要道路の入口。
- 寺社は城の南西部に多く、町の周りや道路の入口にも配置。
- 町屋は城の南側に東西で走っている浜街道沿い。
- 浜街道は東・西の町の出入口で複雑に屈折。
- 北に好間川、東に夏井川、南に新川が流れ、西は丘陵続き。



六間門櫓  
(高さ約5m)

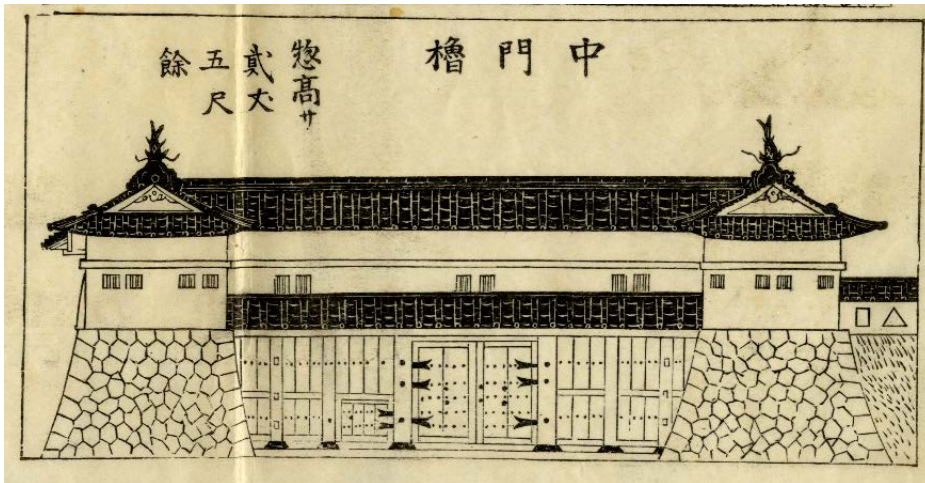
『戊辰私記』  
「磐城平城戊辰  
当年現在拾櫓ノ内  
六櫓ノ図」より

高麗橋の下、磐城平城の  
堀跡を走る国道399号

(2021年10月5日撮影)





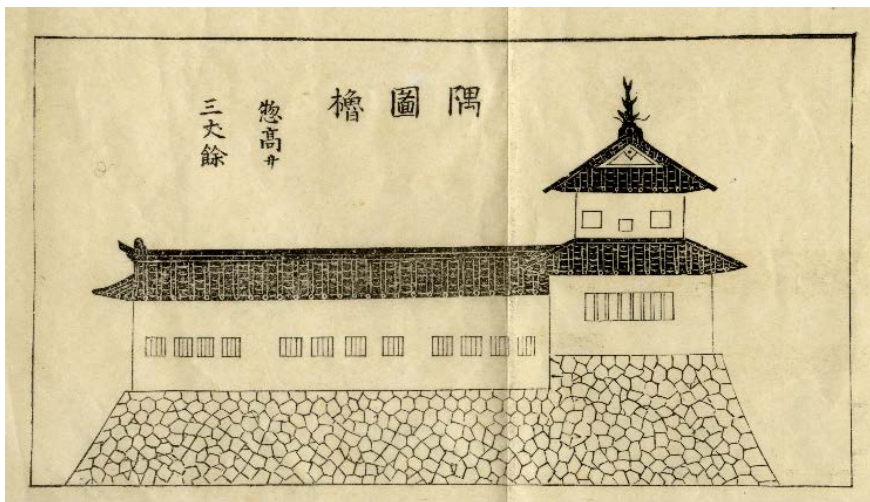


中門櫓 (高さ約7.5m)

『戊辰私記』「警城平城戊辰当年  
現在拾櫓ノ内六櫓ノ図」より

中門櫓の石垣

(2021年10月5日撮影)



隅圖櫓 (高さ約9m)

『戊辰私記』「警城平城戊辰当年現在  
拾櫓ノ内六櫓ノ図」より

塗師櫓の石垣

(2021年10月5日撮影)





# 江戸幕府・磐城平藩 絵図関連年表

西暦	年号	絵図と出来事	平藩主	将軍
1600	慶長 5年	関ヶ原の戦い。		
1602	慶長 7年	鳥居忠政、磐城に入封。	鳥居忠政	
1603	慶長 8年	徳川家康が征夷大將軍となり、江戸幕府を開く。 鳥居忠政、平の赤目崎見物ヶ岡に築城を開始す。		徳川家康
1604	慶長 9年	幕府「慶長国絵図」の調達命令。		
1615	慶長 元年	大阪夏の陣・一国一城令が発令。		徳川秀忠
1622	慶長 8年	鳥居忠政、山形へ転封し、内藤政長、磐城平に入封。	内藤政長	
1633	慶長 10年	幕府巡検使が各地に派遣され、国絵図を献じる。		徳川家光
1637	慶長 14年	島原の乱が起こる。	内藤忠興	
1644	慶長 元年	幕府が、諸大名に「正保国絵図」「郷帳」「城絵図」の提出を命じる。		
1644-1647	正保年間	「正保平城絵図控」 (県文化財・個人所蔵)		
1657	明暦 3年	江戸の大火により江戸城収蔵の正保国絵図が焼失。	(内藤義概)	徳川家綱
1697	元禄 10年	幕府による「元禄国絵図」「郷帳」の調達命令。	内藤義孝	徳川綱吉
1717	享保 2年	徳川吉宗の命により、「日本図」の再製に着手。	内藤義稠	(徳川家宣)
1737	元文 2年	「磐城平城絵図」(三猿文庫・いわき総合図書館所蔵)	内藤政樹	(徳川家継)
1738	元文 3年	元文一揆。		徳川吉宗
1747	延享 4年	内藤政樹、延岡に転封し、井上正経、入封。	井上正経	徳川家重
1756	宝暦 6年	井上正経、大坂城代となり畿内に領す。 安藤信成、平藩入封。	安藤信成	
1779	安永 8年	長久保赤水「改正日本輿地路程全図」を制作。		徳川家治
1789	寛政 元年	「磐城平城下絵図」(市指定有形文化財・個人所蔵)		徳川家斉
1800	寛政 12年	伊能忠敬が全国測量を開始。	(安藤信馨)	(徳川家慶)
1821	文政 4年	大日本「沿海輿地全図」(最終版伊能図)が完成し、幕府天文方の高橋景保らが幕府に上呈。	安藤信義	(徳川家定)
1828	文政 11年	「改正陸奥磐城四郡疆界路程全図」 (いわき総合図書館所蔵) シーボルト事件。		
1835	天保 6年	幕府が「天保国絵図」に着手。(天保10年完成)	安藤信由	
1862	文久 2年	坂下門外の変。	安藤信正	徳川家茂
1868	明治 元年	戊辰戦争にて、磐城平城焼失。 「磐城平城及ヒ附近戊辰当ノ地図・磐城平城戊辰当年現在拾櫓ノ内六櫓ノ図」(『戊辰私記』)	(安藤信民) (安藤信勇)	(徳川慶喜)

<参考資料> 『国絵図読解事典』 『藩史大事典』 『日本史年表・地図』 『いわきの文化財』 『図説 いわきの歴史』

\*平藩主と将軍の( )は、年表で表示した年度の間に在位していたことを示した。



## 鍋田 三善



1778（安永 7 年）－1858（安政 5 年）磐城平藩中老。博搜家。通称は舎人、字は子行、晶山と号し、書齋を静幽堂と称しました。

父の影響を受けて学問を好んだ三善は、江戸で兵学者清水赤城の門に入り、多くの人物と交流を深め、渡辺崋山、佐藤一斎、曲亭馬琴、藤田東湖など、文人や学者と交わりは、文献史料探索の大きな力となりました。

藩命による地図作成のため、1814（文化 11 年）、江戸から磐城に移り、以後 1829（文政 12 年）に江戸に戻るまで 15 年間、三善は藩務の傍ら、寺社や旧家に伝存する古文書を捜し出して写し取り、自分の著述の資料としました。

1841（天保 12 年）、江戸大塚の居宅が火災に遭い、多くの資料を焼失し、没後、平城の櫓に長持ちに納め保管されていた著作や資料も落城で失いました。

1857（安政 4 年）孫の弁之助（三復）に家督を譲り隠居、翌年に安藤家下屋敷で歿しました。享年 81。



### 改正陸奥磐城四郡疆界路程全図



58 cm × 86 cm 多色木版刷り 1828（文政 11 年）百部印刷

序文は屋代弘賢が国文、小宮山楓軒と神林復所が漢文をよせ、三善は自序を記し本図成立の経過を述べています。

『陸奥国磐城名勝略記』は当初この裏面に印刷する予定でしたが、工程上困難なことが分かり別に印刷されました。

（複製図 106 cm × 159 cm）



# 改正陸奥暨城四郡疆界路程全圖

此圖係由陸奥省四郡疆界路程全圖改正而成。其疆界之定，係根據明治二十二年四月二十二日之法律。其路程之定，係根據明治二十二年四月二十二日之法律。其疆界之定，係根據明治二十二年四月二十二日之法律。其路程之定，係根據明治二十二年四月二十二日之法律。

浦津	小島	白河	大野	伊予
神戶	小島	白河	大野	伊予
和氣	小島	白河	大野	伊予
和氣	小島	白河	大野	伊予
和氣	小島	白河	大野	伊予
和氣	小島	白河	大野	伊予
和氣	小島	白河	大野	伊予
和氣	小島	白河	大野	伊予
和氣	小島	白河	大野	伊予
和氣	小島	白河	大野	伊予

此圖係由陸奥省四郡疆界路程全圖改正而成。其疆界之定，係根據明治二十二年四月二十二日之法律。其路程之定，係根據明治二十二年四月二十二日之法律。其疆界之定，係根據明治二十二年四月二十二日之法律。其路程之定，係根據明治二十二年四月二十二日之法律。

此圖係由陸奥省四郡疆界路程全圖改正而成。其疆界之定，係根據明治二十二年四月二十二日之法律。其路程之定，係根據明治二十二年四月二十二日之法律。其疆界之定，係根據明治二十二年四月二十二日之法律。其路程之定，係根據明治二十二年四月二十二日之法律。



改正陸奥暨城四郡疆界路程全圖 (1828)



## 鍋田三善関係年表

西暦	年号	事 項	年齢	藩主	
1778	安永 7年 1月	磐城平・田町門外の邸に生まれる。父三房・母清水氏。	1歳	信成	
1786	天明 6年 9月	父三房、用人となり江戸大塚の安藤家下屋敷に移る。	9歳		
1803	享和 3年 7月	父三房、家老となる。	26歳		
1804	文化 元年 9月	父の隠居により家督を継ぐ。	27歳		
1805	文化 2年	三善、用人となる。	28歳		
1807	文化 4年 1月	藩主信成に従い、上洛の途中三河国矢作光明寺に参詣す。	30歳		
1808	文化 5年	中老となる。	31歳		
1811	文化 8年	藩主信馨、初めて入部す。	34歳		信馨
1814	文化 11年	江戸より磐城に移り、田町会所東隣の邸に住む。	37歳		信義
1815	文化 12年 12月	金山彦神社縁起を書く。	38歳		
1820	文政 3年 12月	立原翠軒『岩城文書』に題言を寄せる。	43歳		
1826	文政 9年 3月	『磐城志』成る。	49歳		
1827	文政 10年 1月	父三房歿す。(享年85)。	50歳		
		5月 水戸藩士小宮山楓軒、三善宅を訪ねる。			
1828	文政 11年	『改正陸奥磐城四郡疆界路程全図』版行。 『陸奥国磐城名勝略記』版行。	51歳		
1829	文政 12年 10月	江戸詰めとなり磐城を出立す。	52歳	信由	
		12月 藩主の子信睦・信中兄弟の名を考案する。			
1833	天保 4年 6月	水戸藩より来状『垂統大記』の編纂協力を依頼される。	56歳		
1835	天保 6年 9月	小川・長福寺縁起を覚元に贈る。	58歳		
1837	天保 8年 1月	孫弁之助生まれる。	60歳		
1838	天保 9年 12月	物頭仰せ付らる。	61歳		
1841	天保 12年 6月	大塚下屋敷の居宅火災に逢い多くの資料を焼失す。	64歳		
1843	天保 14年 3月	藩主の日光参詣に従う。	66歳		
1848-1853	嘉永年間	『赤穂義人纂書』の資料を編纂。	71歳	信睦	
1851	嘉永 4年 11月	妻テツ歿す。	74歳		
1852	嘉永 5年 4月	弁之助近習勤出仕。	75歳		
1856	安政 3年 5月	弁之助、中村茂平長女フキ(母は仙・飯野織部盛業二女)と結婚。	79歳		
1857	安政 4年 5月	三善隠居し、弁之助(三復)家督を継ぐ。	80歳		
1858	安政 5年 3月	三善歿す。法名廣讚院電臨光英俊士。	81歳		

※年齢は数え年表記、三善に関連する事項は赤文字で表記

<参考資料> 『鍋田三善と書簡集「晶山蘭臭」』小野一雄 2005(『いわき地方史研究』第42号)



## >>> 関 連 資 料 <<<

### ○「磐城平城絵図」関係（磐城平城・国絵図・城絵図）

- ◆『いわき市史 第9巻 近世資料』いわき市史編さん委員会 || 編 いわき市 1972 (K/210.1-1/イ)
- ◆『いわき市史 第2巻 近世』いわき市史編さん委員会 || 編 いわき市 1975 (K/210.1-1/イ)
- ◆『戊辰私記 (全)』味岡礼質 || 編 \*復刻 平読書クラブ 1975 (K/210.6-1/ホ)
- ◆『日本の古城 1』藤崎定久 || 著 新人物往来社 1977 (K/521/フ)
- ◆『日本城郭大系 第3巻 山形・宮城・福島』 新人物往来社 1981 (K/521/ニ)
- ◆『いわきの絵図』 いわき市文化センター 1981 (K/291/イ)
- ◆『いわき史料集成 第2冊』 いわき史料集成刊行会 1987 (K /210.0-1/イ)
- ◆『図説 城と石垣の歴史』鈴木啓 || 著 纂修堂 1995 (K/521/ス)
- ◆『磐城平城絵図等調査報告』いわき地域学会 || 編 いわき市 1996 (K/210.5-1/イ)
- ◆『図説 いわきの歴史』 郷土出版社 1999 (K/210.1/-1/イ)
- ◆『ふくしまの城』鈴木啓 || 著 歴史春秋出版 2002 (K/291/ス)
- ◆『地図からいわきの歴史を読む』鈴木貞夫 || 著 2002 (K/210.0-1/ス)
- ◆『いわき人 (ビット) iwaki-bit 3』 いわき未来づくりセンター 2003 (K-051-イ-3)
- ◆『阿武隈高地の地形』里見庫男 || 著 2005 (K/454/サ)
- ◆『武者たちの舞台 下巻』 福島民報社 2007 (K /521/ム-2)
- ◆『平城跡』いわき市教育文化事業団 || 編 いわき市教育委員会 2008 (K/210.2/-1/イ)
- ◆『江戸幕府の日本地図』川村博忠 || 著 吉川弘文館 2010 (448.9/カ)
- ◆『近世ふくしまの国絵図』阿部俊夫 || 著 歴史春秋出版 2010 (K /291/ア)
- ◆『いわき』 歴史春秋出版 2012 (K/210.1-1/イ)
- ◆『いわきの「地霊」② 近代化のなかで、他機能へ転用された城跡』おやけこういち || 著  
(潮流 第42報 別刷) いわき地域学会 2015 (K/210.6-1/オ)
- ◆『東北の名城を歩く 南東北編』 吉川弘文館 2017 (K/291/メ)
- ◆『いわき市の文化財』 いわき市教育委員会 2017 (K/709/イ)
- ◆『国絵図読解事典』 創元社 2021 (K/291/ク)
- ◆『新編 日本の城』中井均 || 著 山川出版社 2021 (K/521/ナ)

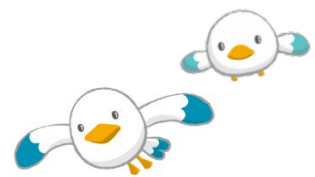
## >>> 関 連 資 料 <<<

### ○「改正陸奥磐城四郡疆界路程全図」関係（鍋田三善）

- ◆『赤穂義人纂書 第一』 鍋田三善 || 輯 国書刊行会 1910 (DK/216.4/7/1)
- ◆『赤穂義人纂書 第二』 鍋田三善 || 輯 国書刊行会 1910 (DK/216.4/7/2)
- ◆『岩磐史料叢書 上巻』(磐城志) 釘本衛雄 || 編 岩磐史料刊行会 1916 (DK/210.0/か/1)
- ◆『磐城誌料叢書 第1刊』(磐城志案録) 諸根正一 || 編 勿来文庫 1930 (KS 三猿/210.0-1/イ)
- ◆『近世人名録集成 第2巻』 勉誠社 1976 (R/281.0/キ)
- ◆『いわき市史 第6巻 文化』 いわき市史編さん委員会 1978 (K/210.1-1/イ)
- ◆『いわき地方史研究 第16号』 いわき地方史研究会 1979 (AL/210.0-1/イ/16)  
\*「晶山鍋田三善の業績について」菊池康雄 || 著
- ◆『いわき地方史研究 第17号』 いわき地方史研究会 1980 (K/210.0-1/イ)  
\*「晶山鍋田三善の業績について(承前)」菊池康雄 || 著
- ◆『潮流 第3報』 いわき地域学会 1985 (K/051/チ)  
\*「鍋田三善の周辺(一)」小野一雄 || 著
- ◆『潮流 第5報』 いわき地域学会 1985 (AL/051/チ)  
\*「鍋田三善の周辺(二)」小野一雄 || 著
- ◆『潮流 第16報』 いわき地域学会 1988 (AL/051/チ)  
\*「鍋田三善の周辺(三)」小野一雄 || 著
- ◆『いわき史料集成 第3冊』(岩城文書) いわき史料集成刊行会 1988 (K/210.0-1/イ)
- ◆『いわき史料集成 第5冊』(磐城志料稿本) いわき史料集成刊行会 1992 (K/210.0-1/イ)
- ◆『いわきの人物誌 上』 いわき市 1992 (K/281/イ)
- ◆『陸奥国磐城名勝略記』 いわき史料集成刊行会 1994 (K/291/チ)
- ◆『鍋田三善と書簡集「晶山蘭臭」』小野一雄 || 著  
\*『いわき地方史研究』第42号別刷 いわき地方史研究会 2005 (K /210.5-1/オ)



協力：小野 一雄



令和 4(2022)年 2 月 26 日 発行

■編集・発行 いわき市立いわき総合図書館

企画展「絵図に見る江戸時代のいわき」

■会期 令和 3(2021)年 10 月 26 日(火)－令和 4(2022)年 5 月 29 日(日)

■会場 いわき総合図書館 5 階 企画展示コーナー